

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	八女総合療育館（にこにこ・にこにこ2・藤家）		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日		～ R8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師を含む多職種による高度な専門的支援体制	医師をはじめ、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理職・保育士等の専門職を配置し、各職種の専門性に基いた評価および支援を実施している。多職種が連携することで、単一視点にとどまらない包括的かつ質の高い支援提供を可能としている。多職種間における定期的な情報共有および評価のすり合わせを行い、支援方針の一貫性と妥当性の確保に努めている。	多職種連携の質向上を目的としたケース検討会の充実および評価プロセスの精緻化を図っている。専門職としての支援の質向上に向け、外部研修への参加および内部研修の実施を継続している。
2	送迎体制の整備による利用継続性の担保	送迎を実施することで、通所に伴う保護者の物理的・時間的負担を軽減し、利用の継続性および安定性を確保している。これにより、支援の中断リスクを低減し、発達支援の効果を最大化する体制を構築している。保護者の養育負担および生活状況に配慮し、過度な負担を生じさせない持続可能な支援の提供を基本方針としている。	
3	生活全体を通じた継続的かつ実態に即した評価体制	9時から15時までの滞在時間全体を評価の対象とし、個別活動のみならず、食事・排泄・更衣・午睡等の日常生活場面を含めた総合的なアセスメントを実施している。これにより、実生活に直結した課題把握と支援立案を可能としている。活動場面に限定せず、日常生活全体を支援の機会と捉え、自然な生活環境下での発達促進を重視している。	家庭、関係機関および他事業所との連携強化を推進し、地域全体での支援体制の構築に寄与している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多様な支援ニーズへの対応に伴う業務負担の増加	利用児童数が多く、加えて多動傾向や医療的ケアを要する児童も受け入れているため、支援の質を維持しながら個別対応を行うに当たり、職員の業務負担が増大しやすい状況にある。支援対象児の多様化（発達特性に加え医療的ケア児の受け入れ）により、求められる支援内容が高度化している。日中の長時間（9時～15時）にわたり生活全体を支援。常に評価しているため、支援範囲が広く、職員一人あたりの対応量が増えやすい。	業務の効率化および役割分担の明確化を進め、職員の負担軽減と支援の質の両立を図る。ケース検討や記録の活用方法を見直し、評価結果をより迅速かつ的確に個別支援へ反映させる体制を強化する。
2	多職種連携における情報共有の効率化の必要性	支援に関わる職種が多いことから、情報共有や意思統一において、より効率的かつ迅速な連携体制の構築が求められる。	職員研修やスキルアップの機会を充実させ、多様なニーズに対応できる専門性の維持・向上を図る
3	関係機関との連携強化の余地	家庭や他事業所、関係機関との連携は実施しているが、児童を取り巻く環境全体をより一体的に支えるためには、情報共有や連携方法のさらなる強化が求められる。多職種連携を強みとしている一方で、情報の整理・共有に一定の時間と工夫を要している。	関係機関との定期的な情報共有の機会を確保し、支援方針の一貫性を高める。